
とあるRPG風世界でのお断

Rail

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるRPG風世界でのお囃

【Nコード】

N3286M

【作者名】

Rail

【あらすじ】

とあるRPG風世界の話。

●とある格闘家の話

とある世界、とある森の中。とあるパーティーが危機に陥っていた。

「まずい！ 体力がもうない！」
と、戦士。

「もう回復魔法も打ち止めよ」
と、僧侶。

「こうなったら、どっかが死ぬまでやるしかねえ！」
と、盗賊。

「ここは俺に任せてくれ！」
と、格闘家が敵の前に躍り出た。

「おい！ 何する気だ！ お前はよせ！ 止めるんだ！！」
という戦士の声にも耳を貸さず、

「喰らえ必殺、回し蹴り！！！」
「馬鹿！ 止めろおおー！！！」

>格闘家の回し蹴り

敵に20のダメージ

格闘家に30のダメージ

>格闘家は死んでしまった

「馬鹿！人喰いニードルに回し蹴り食らわす奴があるか！！」
戦士の怒声がむなしく響いた。

リユー・レイ 格闘家 15歳
レベル5

● 噂の勇者

とある世界、とある草原の一角。今日も雑魚キャラたちが世間話に花を咲かせていた。

「んでさあ、その勇者がめっちゃくちゃ強いんだって」

「そうそう。今まで数々の職業こなしてきたとかで、めっちゃくちゃ強い技とかも使えるらしいよ」

「レベルも99とかいう話だな」

「仲間も相当強いって話だぜ」

そうこう話していると、パーティーがやってきた。最近勇者一行が近くにいるという噂もあり、雑魚キアラ一同、そつと物陰に隠れて様子を窺った。

「見ろよ、あの戦士。腕が丸太みたいじゃないか」

「あの賢者の賢そうな顔！杖なんかめちやくちやレアな奴じゃねえ？」

「あの長い鞭持った奴、魔物ハンターだよ！」

各々、観察した結果に慄き、決して彼らの前に出まいと誓った。ただ、彼らの中に一つの疑問があったが。

「……あの先頭を歩いてる奴はなんだろう？」

ユアン・フィルノ 18歳

装備 ステテコパンツ・ひのきの棒・なべのふた

職業 勇者

現在の状況 カジノでパーティーの全財産をすったため、賢者の発案によるお仕置き中

●職業遊び人

とある世界のとある草原。その一角でいわゆる雑魚のモンスター、

スラ男とスラ吉が話をしていた。

「なあなあ、最近俺ら立場悪くね？」

「まあなあ。仲間はどうどん勇者たちにレベル上げとかいう理由で殺されてるしなあ」

「ここは一つさ、俺らも人間倒してレベル上げしとかねえとヤバイんじゃない？」

「まあなあ。少しでも強くなれば勇者たちから逃げられるかもしれないしなあ」

「だろ？」

と、二匹が話していると、丁度向こうから人がやってきた。

顔が真っ白になるくらい白粉を塗りたくり、青くて丸い付け鼻、真っ赤な口、そして極めつけのストライプの衣装。

遊び人である。

「なあなあ、あれなんか絶好のカモじゃね？」

「まあなあ。いっちょやるか、スラ男」

「おい、そのふざけたお前、覚悟しろ！」

<スラ男のこうげき

遊び人に0のダメージ

<スラ吉のこうげき

遊び人に0のダメージ

<遊び人はイオナ●ンを唱えた

「ぎゃあああああああ……！！！！！！」

<遊び人は4の経験値を得た

ブルーノ・フォート 24歳

職業 遊び人

習得済職業 魔法使い、僧侶、賢者、剣士、格闘家、バトルマス
ター

レベル 60

今日も世界は平和です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3286m/>

とあるRPG風世界でのお囁

2011年11月12日23時40分発行